



■著名な英国の作家 C.S. ルイスはこう言いました。『「永遠」が私たちの存在を決める。』この事を一緒に考えて見ましょう！

無神論者にとって『永遠』というものは存在しません。もし仮に永遠などなく、死後の世界には何も起こらないと考えるなら、今、生きているうちは善悪などは気にせず、一生懸命遊んで暮らしてもかまいません。何故なら将来などはないからです。だから結局、未来の為に「環境を守ろう！」なんて意味のないことです。でも私達は違います。

■伝道者の書 3 章 1 1 節には「神はまた、人の心に永遠を与えられた。」とあります。

人の心には神様から「永遠」という思い、「永遠」という考え、「永遠」という DNA が与えられています。どんな国に行っても「永遠」という概念がそこにあります。死んだ後にも何かが存在する。多くの人がそれを感じています。無神論者と自認する人でさえ、ある面でそう感じています。そうでなければ、なぜ自分の子どもを大切にするのでしょうか？なぜ自分の周囲の環境を大切にするのでしょうか？それはやはり、何となく「将来がある」「永遠が存在する」という思いが人の心にはあるからです。

■イエス様はこの世に来て、この「永遠」についてたくさん語られました。

ヨハネ 1 7 章にはイエス様が「私は、永遠のいのちを与えるために来た。」(2 節)と仰いました。又、「永遠のいのち」とは「神を知ること。」「主イエスを知ること」(3 節)であると明確に語られました。更に、福音書を見るならば、永遠に関するストーリーがたくさん出てきます。ルカの福音書 1 2 章を読んでみましょう。「先生。私と遺産を分けるように私の兄弟に話してください」と言った。すると彼に言われた。「いったいだれが、わたしをあなたがたの裁判官や調停者に任命したのですか。」そして人々に言われた。「どんな貪欲にも注意して、よく警戒しなさい。なぜ

なら、いくら豊かな人でも、その人のいのちは財産にあるのではないからです。」(ルカの福音書 1 2 章 1 3 節～1 5 節)

この遺産を分けるように願った人に対しての、イエス様の返答の意味はこういうことです。それは「君たち、一体なぜそんなことで悩んでいるのか？この世での人の一生はどれほど短いものかをよく考えなさい！」そして更に続く有名な例えの中でもイエス様は語られます。『こうしよう。あの倉を取りこわして、もっと大きいのを建て、穀物や財産はみなそこにしまっておこう。そして、自分のたましいにこう言おう。「たましいよ。これから先何年分もいっぱい物がためられた。さあ、安心して、食べて、飲んで、楽しめ。』」(ルカの福音書 1 2 章 1 8 節～1 9 節)

この金持ちに対する神様の答えは『愚か者。おまえのたましいは、今夜おまえから取り去られる。そうしたら、おまえが用意した物は、いったいだれのものになるのか。』(2 0 節)

パウロがテモテに言いました。「私たちはこの世に何一つ持つてこなかったし、また何一つ持って出ることもありません。」(1 テモテ 6 章 7 節) クリスチャンの皆さん！本当にそう信じていますか？ 卒業生の皆さん！本当にそう信じていますか？ 銀行にどのくらい貯蓄があるかを気にしなくてもいいのです！ 自分の財産がどのくらいあるかなんて、そんな事を気にしなくてもいいんです！なぜなら地上の富を天国には持って行けないからです！

■私(スコット)が若いとき、アメリカの有名なチャールズ・スインドル先生の教会に行きました。

メッセージの後、スインドル先生とお交わりを持つことができ、その中で先生がこのようなお話をされました。先生が若かったとき、ダラスにある神学校に行っていましたが、お金がなかったのでアルバイトをしたそうです。そのアルバイトは面白いバイトで、葬儀屋さんのアルバイトでした。牧師は何でもやるんですね。そしてアメリカでも日本と同じように、前夜式のようなことをします。その葬儀屋ではいろいろなスーツを持っていました。

亡くなった方のご遺族が貧しい場合、洋服があまりみすばらしいと恥ずかしいということで、亡くなった方に葬儀中に着せておく素敵なスーツで、葬儀が終わると、遺体にまた元の普通の洋服を着せて葬るということがあったそうです。そして、スインドル先生が卒業間近になった頃、そのバイト先でお葬式をするように頼まれたそうです。しかし先生は貧しかったので、良い服をもっていませんでした。それで葬儀屋さんが、亡くなられた方に貸しているスーツを「どれか選んで着て良いよ。」と言ってくれたそうです。ちょっと気持ち良くない感じがしますがけれど(笑)、とにかく自分のサイズにぴったりの素敵なスーツを着ました。そしてそのお葬式の説教をしました。緊張しながらも、何とか福音を語るためにリラックスしようと思い、スインドル先生がスーツのポケットに手を入れようとしていました。ところが、そのポケットは形だけで、実はポケットになっていなかったのです。手を入れようとしたけれど、ポケットがない！その時、悟りが来ました。「死んだ人は、ポケットはいらん！」・・・今日、みなさんはそれしか覚えていないかもしれませんね？(笑)。でもこれは大切な真理です。私は若いときにそれを聞いて、「なるほど…」と思いました。皆さん、天国に何も持っていくことはできないんです。イエス様はこの真理を語られる為に、違う表現を使いました。

ルカ 1 2 章 3 3 節～3 4 節にはこうあります。「持ち物を売って、施しをしなさい。自分のために、古くならない財布を作り、朽ちることのない宝を天に積み上げなさい。そこには、盗人も近寄らず、しみもいためることはありません。あなたがたの宝のあるところに、あなたがたの心もあるからです。」イエス様は、あなたがたが死ぬとき、虫がついたり、錆びるような、そんな宝物を作ってはいけない。あなたは「天に宝物」を作りなさい！と言ったんです。そして、宝があるところに、あなたの思いが行きます。4、5 年前にアメリカでリーマン・ショックがあり株が暴落しました。これは全世界に大きな影響をあたえました。この時、悲しいことに大勢の人が自殺してしまいました。何故？このような事が起こってしまったのでしょうか？それは宝物がウォール街にあったからです。クリスチャン！あなたの宝はどこですか？もちろん、天国ですね。ですから、そのように生きましょう。12 章のたとえ話に戻ります。イエス様が最後におっしゃった言葉をもう一度見てみましょう。21 節「自分のために蓄えても、神の前に富まない者はこの通りです。」英語の聖書に書いてある言葉が私は好きですね。”...rich towards God” 今年に入ってからこのストーリーを読んで思いました。私は神様に対して、めちゃめちゃリッチになりたいです！アーメン？ 天にいっぱい宝があるようにしていきたいです！！

■今日は私の作品を持ってきました。紐です。安心して下さい。これで皆さんを縛ろうとしたりしません(笑)。

アメリカの伝道師、フランセス・チャン先生が行ったイラストレーションを見て、これはいい！と思いました。

この「紐」が『永遠』であると考えて下さい。今これは数十メートルしかありませんが、想像してみてください、この紐がずっと伸びて、ハワイまで行くんです。ハワイから南米まで。南米からアフリカに行って、アフリカから東南アジアへ、そしてこちらに戻り、もう一回まわっていく。これがずっと、何回も何回も、永遠に続くことを想像して下さい。そして・・・私たちが生きているのは、このわずかな部分です。この見えている「紐」の長さです。わずか 80 年、今の最高長寿の方でも 115 歳と言っています。115 歳でもわずかな長さです。この世の中の人たちの大部分はこ

の紐の見える部分しか知らないのです。そしてこの紐の先の見える部分のことばかりを考えています。「引退してからゆっくりしよう。」あの倉を作った人と同じですね。人生の最後にリタイアして、その楽しいリタイア後の生活だけを考えて、残りの人生を全部生きている。私はそんな人生は送りたくはありません。私が生きたいのは、「永遠」です！だから「永遠」があることを信じましょう！

■「神の前に富む。」ことについて、キルケゴールという哲学者がこのようなことを言いました。

「人生は後ろを振り向かなければ理解できないが、我々は前を向いて生きていなければいけない。("Life can only be understood backwards but must be lived forwards.")」私はこのスローガンが好きです。これはどういう意味でしょうか？

私たちは、今までやったことを少しふり振り返りながら、しっかり前に進んで行くのです。私は 1 8 才の時にクリスチャンになりました。イエス・キリストと出会い十字架の元で罪が赦され、神様は私に 1 枚の切符を渡してくれました。その切符は永遠のいのちです。私の人生の 1 8 才のスタートから、私の後ろには常に永遠が続いています。永遠への約束が与えられています。ですから後ろが確かに決められ赦されているので、私は確信を持って前に進むことができます。皆さん！これがキリスト教の基本の中の基本です！ですけど私達はよく見失ってしまうところでもあります。

■ここで貴方に質問します！"How should we live?"

「永遠」ということがあれば、「貴方はどんなふうに生きたらいいのでしょうか？」

■1 つは、「迷ってはいけません。”Don't be distracted.”

「永遠」ということを知れば多くの誘惑から守られます。世の誘惑は楽しく見えますが、私たちにはそう感じられません。永遠を知ればこの世からの誘惑の力がすごく弱くなります。「愛する者たちよ。あなたがたにお勧めします。旅人であり寄留者であるあなたがたは、たましいに戦いをいどむ肉の欲を遠ざけなさい。」(1 ペテロ 2 章 11 節) この御言葉が私は好きです。なぜなら英語の聖書では"Aliens"(エイリアン)と書いてあります。私はエイリアンです！ハレルヤ！隣の人にも言ってあげましょう！あなたは本当にエイリアンですね(笑)！

私は、ハワイ人ではない！アメリカ人ではない！日本人ではない！韓国人ではない！中国人ではない！香港人ではない！私はニュージーランド人ではない！私は天国人です！！本当にそう信じますか？そうならば、この世の誘惑は全然来ません。

私は 3 0 数年前にはじめて日本に来た時、日本の一般の家庭にある悩みが全く理解出来ませんでした。日本の家庭は一般に自分の子供をどこの幼稚園に入れたらよいかを親が悩みます。でも私が育ったアメリカでは子供をどこの幼稚園に入れるかなんて考えた事ありませんでした。でもその後日本に住み、日本人の奥さんと結婚し、子どもが生まれた時、自分の子供をどこの幼稚園に入れるかで悩み、その為に子供と面接の練習までしました。なんと私も同じ誘惑に負けてしまいました。でも私たちは旅人です！ずっとここにいるわけではありません！ヘブル書に書いてある通り、私たちは天国という「天の御国」の事を考えています。ですから、私たちがそこに向かって進んでいくのです。皆さん、あなたの思いはどこに置いていますか？天に置いていますか、地上に置いていますか？

(更に 4 ページに続く)